

あきらめたらおしまい
- 自分の未来は自分の力で切り開こう -

林 明夫
(栃木県経営者協会 会員)

1. はじめに

(1) 本日の講演の目的

厳しい経済状況の中ではあるが、就職とは何か、仕事とは何か、何のために働くのかを自分の人生の中で真正面から考え、また、雇われる能力を身に付けながら就職戦線を勝ち抜くにはどうしたらよいかを考える。

自社も含め数多くの企業、非営利法人での実体験を踏まえ、採用試験に臨むまでの手順、採用試験に際しての注意点、内定後入社式までの過ごし方、入社後3年間の過ごし方、退職に際しての心得、休職期間中の過ごし方、再就職に際しての心構え、定年までの過ごし方、定年退職後の過ごし方、創業の心構えなどを具体的にわかりやすく解説する。

参加者全員が本人の希望する職業に就けることを心から願いお話しする。

(2) お願い

一所懸命に一期一会の精神でお話します。おしゃべり、ケータイ、居眠りはお避け下さい。必要なところはメモをお取り下さり、帰宅後、何回も読み直して下さい。

(3) 講師プロフィール

株式会社 開倫塾 代表取締役社長

マニー株式会社(手術用縫合針製造) 社外取締役

学校法人 有朋学園 東日本高等学院 理事長(福島市)

社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 理事(足利市)

栃木県教員委員会 栃木県社会教育委員

公益社団法人 経済同友会 幹事、サービス産業活性化委員会 副委員長

社団法人 栃木県経済同友会 幹事

社団法人 栃木県生産性本部 理事

栃木県産業協議会 理事

とちぎニュービジネス協議会 理事

足利商工会議所 議員(11月より)

宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

開倫ユネスコ協会 会長

開倫研究所 所長、教育経営品質研究会 主宰

CRT 栃木放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25 24年間担当

慶應義塾大学法学部法律学科卒業。卒業後 29歳まで慶應義塾大学法学部司法研究室研究生
世界銀行研究所、ハーバード大学国際開発研究所で各々民営化短期集中コース修了

《御参考》

1つ1つの仕事や活動には、社会的使命(mission ミッション)がある。その果たすべき使命とは何かを理解し、追い求めることが組織と社会の発展のためには大切と考える。

2. 現代社会の特徴とこれからの社会で求められる基本的な能力とは

- (1) 知識基盤社会 ... 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力
- (2) 国際化社会 ... 多様な集団で交流する能力
- (3) 少子高齢化社会 ... 自律的に活動する能力
- (4) これからの社会で求められる基本的な能力の前提
 - 「学び方を学ぶ」能力を身に付けていること
 - 「読書による思慮深さ」を身に付けていること
 - * 新聞を読んで自分で考える能力、批判的思考能力(Critical Thinking クリティカル・シンキングする力)を身に付けていること

3. 基本的な考え

- (1) 自己責任、自助努力(self-help セルフ・ヘルプ)。自分のことはすべて自分で行う。
- (2) あきらめたらおしまい、自分の未来は自分で切り開く。

4. 仕事とは何か、何のために働くのか、雇われる能力とは何か

- (1) 仕事とは何か
顧客の問題解決、お客様のお役に立つこと。

社会の問題解決、社会のお役に立つこと。

正常に機能する社会、持続可能な社会の形成に寄与すること。

- (2) 何のために働くのか
生活できるだけの収入を得るため。

お客様のお役に立つこと、社会のお役に立つこと。

自己実現。

よく生きるため。

- (3) 雇われる能力(employability エンプロイアビリティ)とは何か - よい仕事をするためには - メモを取り、メモを身に付ける - 仕事はメモで身につける - 。

学び続ける - 教育ある人とは勉強し続ける人 -

(ア) 世の中の動きを知る、世の中の課題を知る。

(イ) お客様が求めることを知る、世の中が求めていることを知る。

(ウ) 仕事に必要なこと、また、自分に不足する知識・情報・技術を少しずつコツコツと身に付ける。

《御参考》

人は自分が死んだ後に、後の世に何が遺せるのか。考えてみよう。

内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマルク国の話」岩波文庫によれば、「お金」「事業」「著作(作品)」「教育」それに「生き方」がある。

組織とは何か - 永続する組織の条件 -

(ア)規律ある人材が、

(イ)規律ある考えに基づき、

(ウ)規律ある行動する。

1つ1つの仕事の社会的使命(mission)を知り、理解、職業人としての責任を果たす。

5. 就職試験に臨むまでの手順

- (1)自分は就職試験を受験する受験生であるという自覚をもち、自覚を深めること
まずは就職を希望する企業名、就職先、業種を明確にすること。

就職を希望する企業、就職先、業界について調査、研究を行うこと。

(ア)公表された資料はすべて読み、現場にも行く。(HPだけでは不十分)

(イ)歴史、現状と課題を自分なりに文章にまとめ上げる。

企業理念、経営方針、代表的な取り扱い品目・サービス、特に社会的使命(mission)をできるだけ「理解」するように努める。

なぜその企業や組織に就職したいのかを頭のシンが痛くなるくらい考えた上で、志望理由を文章化、毎日数回音読(声を出して読む)、自分のことばでスラスラ言えるようにする。

- (2)試験勉強の方法を考える

試験科目を調べ、対策を行う。

TOEIC 対策

(ア)TOEIC 運営委員会発行の TOEIC テスト新公式問題集第 2 巻、第 3 巻を最低 6 回ずつ学習。2 巻、3 巻をマスターしたと考えた場合は、第 4 巻に進むことをお勧めする。

(イ)解答はすべてノートに書き、文法事項は「フォーレスト」で調べる。

(ウ)公式問題集に出る単語はすべて辞書を引き、正確に理解、音読、書き取り練習で身に付ける。

(エ)リスニングの CD の Part 2、3 を重点的に聞く。When と Where を聞き分け、1 回聞いて 1 点上げ聞くつもりで、何十回、何百回も繰り返し聞くこと。

(オ)入社後も TOEIC は求められるので、継続学習を。

(カ)転職や大学院進学のときにも TOEIC のスコアは求められる。継続学習を。

SPI 対策

(ア)問題自体は良問で難しくないが、初めは解くのにとにかく時間がかかる。解けなければ話にならないので、ゆっくりでもよいから確実に解けるようにする。最初は解答を見ながらも OK。初心者用の単元別参考書をじっくり学習すれば、問題自体は誰でも解けるのが SPI。

(イ)一度やった問題でなぜそのような解答になるかがよく「理解」できたものは、問題を見た瞬間にパッと答えが出てくるようになるまで同じ問題を繰り返し学習すること。

(ウ)繰り返し学習するために、解答はすべてノートに。

筆記試験対策

(ア)中学校・高校の教科書、参考書、資料集をフル活用する。

(イ)学校の教科書は一度勉強し、定期試験対策の勉強などは知識を定着させたことがあるものなので、アツという間に中学校時代、高校時代のレベルに戻る。

*音読練習、書き取り練習、計算・問題練習も有効。

(ウ)新聞をじっくり読むことは就職試験に最も役に立つ。

*大学や地域の図書館で毎日1時間以上新聞を何紙も読み続けること。

*日本語で意味・内容がよくわかっている記事は、がんばって英字新聞の記事も少しずつでいいから読み続けること。

*現代的な課題について論文を書くときには、新聞の社説や論説、コラム特集記事は有用。

(エ)文字は相手を読むことを前提に書くこと。楷書(かいしょ)、つまり学校の教科書のような書体で文字を書くことが不得意な人は、「ボールペン習字」を、薄い本1冊でいいから、ノートに繰り返し練習すること。

*書類を送る封筒の文字も採用側は見ている。

コンピュータのスキルもできるだけ身に付ける。自分のレベルを明確に言えるようにする。

*ワード、エクセルが使えるようにしておくこと。

エントリーシートの書き方や試験勉強の仕方が大事。各大学等の就職支援センター、キャリア支援センターなどをフル活用すること。

(ア)採用試験に合格した先輩からアドバイスをもらうこと。

書いたものを見てもらったり、同じ文章を自分でも何回も訂正し続けるとだんだん上手に書けるようになる。

(イ)一人でやってもよいが、アドバイスを求めたり、助けを借りたりすることも大事。

*一人で悩まないこと。

集団討論対策

(ア)自分の考えをていねいな言葉で表現すること。

(イ)チームプレイができるかを見る試験官が多い。

6. 就職試験当日の心得

- (1) 集合時間の 10 分前までには会場に到着する - 時間前に会場に到着できるのも大事な能力 - 前日までに一度は会場の下見を。

トイレは会場に到着するまでに済ます - ただし、ガマンはしないこと - 。

会場に入る直前から会場から出るまで試験は続いていると考える(控え室や廊下での態度、挙動も注意)。

- (2) 服装第一

下着の文字や色が透けて見える服装はしない。

背広に白い靴下やスニーカーは合わない。

髪型や髪の色、ピアス、指輪、ブレスレットに注意。

- (3) 元気にあいさつ

小さい声は聞きにくい。少し大き目の声であいさつを。

明るく元気にあいさつを。

- (4) 躰(しつけ)

敬語表現を含む言葉遣い。

です・ます調で話せる。

美しい立居振舞。

お辞儀の仕方も身に付ける。

「5S」

「整理」「整頓」「掃除」「清潔」「躰」をローマ字で書くとSで始まるので「5S」という。

躰とは誰に言われなくても、自分の意思で行えること。自然にできること。身につけていること。

- (5) 筆記試験

文字や数字をていねいにわかりやすく書く練習を

(ア) マンガ字は避ける、クセのある字は避ける。

(イ) 楷書で書く(書けなければボールペン習字の練習を)。

試験中の態度にも注意。

- (6) 面接試験

ドアの開け方、お辞儀の仕方、椅子への着席の仕方の練習を。

背筋を伸ばし、相手の目を見て応答する練習を。

質問に対して、よく考えた上でゆっくりわかりやすく解答する練習を。

志望動機、入社してから取り組みたいことは必ず質問されるので、自分の考えを理由を付して明確に述べる練習を。

- (7) 集団討論

議論の流れを踏まえ、理由を明確にした上で自分の意見をはっきり短く述べる練習を。

議論していてシドロ・モドロにならないように話す練習を。

語尾が相手に聞き取れる練習を。

練習、練習、また練習。練習は不可能を可能にする。

7. 内定後入社後までの過ごし方

- (1) 今通っている大学、短大、専門学校、大学院等での勉強に全力を尽くす。
- (2) 学生の本分は、勉強。本分を全うすること。
* 本分(ほんぶん)とは、その立場にある者として他を犠牲にして果たすべき義務。
- (3) 学校時代の友人は一生の友人、先生は一生の恩師。友情、学恩を育もう。
- (4) 学生時代に一度は行ってみたいと思っていた場所に行く努力をする。
- (5) 学校時代の教科書、参考書、資料集、ノートは一生役に立つ。仕事にも役立つ。処分することなく、整理、分類し、たえず目を通す。
- (6) 勤務先の業界、業種の動向について深い関心を持ち、専門誌、新聞、単行本などで研究、資料収集を怠らない。
- (7) 病気があったら、入社までにできるだけだけの治療を試みる。
- (8) 内定辞退の原因が発生したら一日も早く直接担当者に会い、お詫びをし、承諾を頂くこと。

8. 入社後3年間の過ごし方 - 健康第一 -

- (1) 規則正しい生活を。 - 健康管理は自己責任 -
毎日、同じ時間に起床し、同じ時間に就寝。

できるだけ、身体と精神を休める。

週に1回はリラックスできること、自然に親しむこと、楽しいことを。

栃木県は温泉が多いので、日帰り温泉が一番よいかも知れない。

自分のことはできるだけ自分で。

- (2) 仕事はメモで身につける。
必要なことはすべてメモし、メモを整理し続ける。

時間があったらメモを「理解」し、よく「理解」できたら「音読練習」や「書き取り練習」をして、正確に身につける(定着をはかる)。大切な数学や計算はその意味が「理解」できたら、パツ、パツと言えるまでにする。

1日1回、週に1回は、とったメモをすべてゆっくり読み直す。

メモを通して、コツコツと、1つ1つの仕事(現場作業)を確実に身につけることが入社後3年間になすべきこと。

職場で出会う自分以外のすべての人は、顧客も含め、「師」であると考えるとよい。

(3) 5S(整理、整頓、掃除、清潔、躰)の実行を。

(4) 基礎教育の内容(仕事の上で欠かすことのできない知識、情報、技術)を少しずつでよいから時間をかけて正確に「理解」し、「定着」(身につけること)、現場で実際に使えるようにすること(「応用」)。

(5) 仕事は「段取り八分」(だんどりはちぶ)、仕事に取りかかる前にどれだけ準備したかで結果(効率と正確さ、バラツキのなさ)が決まる。

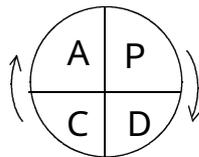
準備の中で最重要なのが、仕事の方法つまり、「手順」(その仕事をどのような順序でやるか)を考え抜くこと。(A B C D E F)

その仕事全体の手順書(計画書、Plan)や、その日の仕事の手順書(計画書、Plan)を仕事に取りかかる前に、また、一日の仕事を始める前に必ず書き上げた上で、頭の中に正確に入れ、できるだけその通り実行(Do)する。

(ア) 手順書通り 1 つ 1 つできたか否か確認(Check チェック、検証)しながら行うのが最もよい仕事のすすめ方。

(イ) 様々な出来事が発生したら、その度ごとに修正(Action アクション)。

(ウ) これを P(Plan 計画) D(Do 実行) C(Check 検証) A(Action 修正)をまわすと言う。



(エ) 1日1回、1週に1回、1か月に1回、四半期(3か月)に1回、1年に1回、定期的に「仕事の手順書」に反省点を赤ボールペンで書き込み続ける。

(オ) 昨日よりは、今日、今日よりは明日の精神で毎日、毎週、毎月、毎四半期、毎年、少しずつよくなろうと改善をつみ重ねる。

(カ) このような取り組みをすると「仕事の手順書」が自らの成長の記録となる。

9. 退職に際しての心得

(1) 顧客や勤務先への迷惑はできるだけかけないことが社会人としてのマナー。

(2) 退職の申し出は、理由を附して、できれば半年～2・3か月以上前、どんなに遅くとも1か月以上前がマナー。

(3) 引き継ぎは、メモを作って詳細、丁寧、時間をかけて。会社・職場の売上げや利益、計画の妨げにならないように

(4) 立つ鳥跡を濁さず。会社の経営情報だけでなく、勤務先の悪口や批判は一切口にしない。誰にも、家族にも、一生話さない事。耳にした人は、いやな思いがするだけ。何の解決にもならない。

(5) 礼状を必ず出すこと。

10. 転職に際しての心得

- (1) 前の勤務先の経営情報は絶対に開示しない。前の勤務先の悪口や批判は、一切口にしない。前の勤務先との比較も絶対にしない。
- (2) 今度こそ骨を埋めるつもりで、新入社員として、一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心に)働く。
- (3) 知ったかぶりをしない。経験者だからといって威張らない。その職場でも仕事をゼロから身につけるつもりで、大切なことはコツコツとメモを取り続け、メモを身につける。
- (4) 今度こそ、P D C Aを自分なりに完全にまわす。

11. たえず仕事上のスキルを身につけ、プロの職業人として定年まで過ごすために

- (1) 危機意識、当事者意識を持ち続け、問題を先送りにせず解決する。
- (2) 「観察」「分析」「判断」の手法を身につける。
 - 「観察」とは何が本当の問題か発見すること。
 - 「分析」とは、何が問題の本当の理由かを、「なぜ、なぜ、なぜ」と頭のシンが痛くなるほど突き詰めて考えること。
 - 「判断」とは、問題の解決方法を考えること。
 - (ア) 「応急(緊急)措置」...とりあえずどうするかを考える。
 - (イ) 「システム変更(制度設計)」...何年かかけてしくみをどうするかを考えること。
- (3) 「競合比較」...競争相手がどのようにして問題解決を図っているかを知ること。
- (4) 「ベストプラクティスのベンチマーキング」... 1つ1つの問題についての最良の実践例を次の3つから素直な心で学び続けること。
 - 社内ベストプラクティスのベンチマーキング
 - 同業他社のベストプラクティスのベンチマーキング
 - 異業種のベストプラクティスのベンチマーキング* 身近な社内にも、同業他社にも、異業種にもベストプラクティスは存在する。自分以外は「師」と考えていれば、参考になることは山ほどある。
- (5) 強い問題意識の下に因果関係(何をすればどのような結果になるかという関係)、「定石」をまずは知ること。
- (6) 知っても技術や組織(しくみ)が欠けていればすぐにはできないので、できるだけ簡単な形で少しずつ実験を繰り返し、コツコツとあるべきものをつくりあげる。
- (7) 「田舎 10 年、京の 3 日」。時には、日本の最先端、世界の最先端に接し、刺激を受けてく
- (8) 厳しく叱ってくれる「師匠」をもつこと。
- (9) 「励まし合う仲間」をもつこと。

(10)結果が出なければ仕事をしたことにはならないというプロとしての自覚を深めること。

(11)高い志、夢を持ち続けること。

「持続する志」

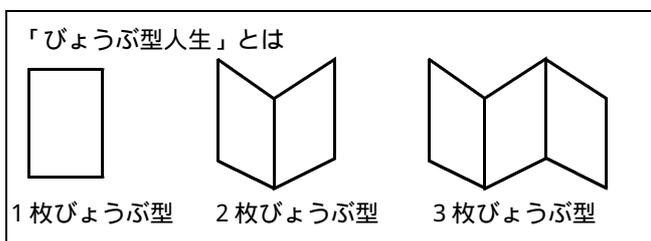
「If you can dream, you can do it!」

(12)たえず学び続け、同時にいつも最悪のことを考えること。どうしたら危機を発生しないしくみができるか、一度発生した危機を乗り越えることができるかを考え続けること。

12. 定年退職後の過ごし方 - いつまでも若々しく生きる -

(1)びょうぶ型人生のすすめ - 人生は長い、充実した人生を。 -

人間として自分の一生にとって大切なものは何か、いくつか考え、その1つ1つを大切に大切に少しずつ勉強して内容を充実していく人生。



家での生活の中に1つ、仕事での生活の中に1つ、社会での生活の中に1つ、大切なもの(びょうぶ)を考えるのも面白い。

家の中に3つ、仕事の中に3つ、社会の中に3つ大切なもの(びょうぶ)を考えるのも面白い。

1つ1つのびょうぶの内容を、初心者レベルから、世界最高レベルにまで自分なりに一生かけて自分の力でもっていくことはもっと面白い。

(2)退職後になすべきこと - 一生勉強、一生青春 -

自分のことはすべて自分です。

1円でもいいから収入が得られる仕事を死ぬまでし続ける。

社会のお役に立てると思われることを思い切りやる。

好きな勉強を好きなだけやる。

学生時代の勉強をもう一度やり直す。

* 大学や大学院で一生勉強し続けるのも面白い。

* 図書館や美術館、博物館、体育館、公民館などの社会教育施設の活用のスキルを身につける。

13. 創業の心得 - 明るく、楽しく、元気よく -

(1)何を自らの仕事とするかが大事

直感も大切だが、自分の適性、能力や現在の経済状況をふまつつ、どのような仕事がかれからの「時流」(お金の落ちているところ)なのかを徹底的に調査することも大切。

他の地域で大流行して(はやって)いて、この地域ではほとんど見られないことを他に先がけてやるのも一手。

* 但(ただ)し、地域の特性もあることに注意。

(2)とにかく小さく始める(お金をかけない)こと
自分でやれることは、すべて自分でやる。

賃金が支払えるようになるまで人は雇わないこと。

(3)365 日一日の休日もなく朝から晩まで働き続け、24 時間寝ても覚めても仕事のこと、つまり、お客様の問題解決とは何かを考え続けるのが創業者。

(4)「0(ゼロ)から小へ」「小から中へ」「中から大へ」「大から永続的発展へ」と段階が企業にはあるようだ。

但し、「小は小なりに」「中の中なりに」「大は大なりに」永続的に企業として発展するという考えもある。

企業規模の拡大を追わず、長寿企業を目指すのも一つ。

創業の DNA と革新(イノベーション)の精神を伝え続けるしくみをつくるのも創業者の役割。

ともに働く人の幸福を考え続けること。働く人を大切に。

(5)健康第一。倒れたらおしまい。

14. おわりに - あきらめたらおしまい、自分の未来は自分で切り開く -

(1)企業はたえず人手不足。規律ある人材、自律的に活動する能力を備えた人材はいつも不足している。

(2)半分以上、できれば三分の二以上、入れ換えねば経営は維持できないと考えている経営者も多い。

(3)問題は、誰をこれから社員として迎えるか。誰をバスに乗せるか。

(4)もしかしたら皆様の競争相手は日本人以外かも知れない。

*世界の大学は大競争時代に突入。自分の大学の存在を懸けて国際競争力のある人材育成に励むようになった。

(5) 目を世界に開いて、どのような能力(スキル)を身につけなければならないかを考えて頂きたい。

そのようなスキルさえ身につければ、皆様は世界で大活躍できる。

あきらめたらおしまい。自分の未来は自分で切り開く。

以上

御清聴を感謝申し上げます。

御質問がありましたらお気軽にお寄せ下さい。

(www.kairin.co.jp)開倫塾のホームページの中にある、林明夫の個人ホームページに本人のテキストが掲載されています。